

演劇集団あり公演

昭和二十年、夏。

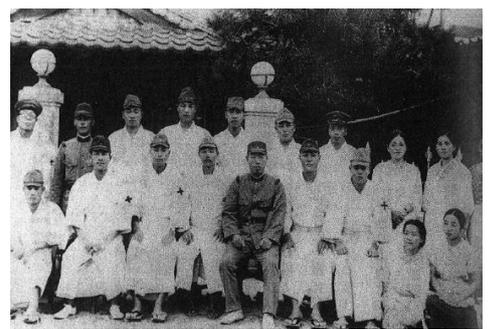
作・演出 添谷泰一



彦名国民学校 なぎなた演技



和田村防空演習



傷病兵 (皆生静養館前)



米子高女校庭 (現米子西高) 千人針



大篠津愛国婦人会



バケツリレー



学徒労働員



煙を吐いて走る列車



学童疎開

主催者

日時

場所

問い合わせ先

面影地区人権啓発推進協議会

10月 6日(日)午後 1時 30 分開演

鳥取市立面影地区公民館

0857-24-9033

熊党・二本木・上蚊屋合同小地域懇談会

10月 19日(土)午後 1時 30 分開演

米子市立箕蚊屋小学校

0859-27-0910

ヴイレステひえづ

10月 27日(日)午後 2時 00 分開演

ヴイレステひえづ

0859-27-0606

南部町教育委員会

11月 4日(月祝)午後 2時00分開演

南部町 キナルなんぶ

0859-46-0870

2022年2月、ロシアがウクライナへ軍事侵攻。この21世紀に、なんという愚行。彼らは歴史に学ばなかったのか。連日、〇〇が攻撃されると瓦礫の映像が流される。その裏では民間人が、子供たちが無残に殺されている。身が引き裂かれる思いだ。そして、2023年10月、パレスチナとイスラエルの戦争。ひとたび戦争が起これば、これでもかというくらい人が死ななければ、戦争は終わらないということが分かっている。世界はまさに暴力が支配している。

世界中の人の思いは一日も早く戦争を終わらせたい。そう思いながらも、どうしようも出来ない現状。確実に言えるのは、思っているだけでは、戦争は終わらない。行動に移さなければならない。僕たちは演劇をやっている。言葉を持っている。お芝居で「戦争はやってはならない」というメッセージを送り届けることが出来る。世界中の人が心を一にして「戦争、止めろ!」と叫べば、どうだろう。やってみる価値があるのではないのだろうか？ 僕たちはそれにかけてみる。

(2024,8 ,15終戦記念日にて)

台本の中からキーワードになる台詞の抜粋

案内人「人は何故戦争をするのでしょうか？ 友達になれたのかもしれない

人と何故、殺し合わなければならないのか？」

女学生「本当の幸せって、明日、生きていることだと思う」

お母ちゃん「欲しがります。勝つまでは」

神戸「恋も、非常時じゃ!」

お母ちゃん「大工でトンカチもっちゃったもん、鉄砲なんか持たして、頓珍漢なことだわ」

軍国「命って……、生きるって……、凄い」

大山「今こうしてあたりまえのように生きようけど、あたりまえじゃないの。

たくさんの犠牲があり、偶然が重なり、人の思いやりのうえで、生かされちよる。これって奇跡のような気がする」



演劇集団ありプロフィール

1970年、宮倉義文、前田昭、半沢敏夫、後藤寛が旗揚げ。その後、春、秋の定期公演。1991年宮倉義文作「星の世界の星祭り」国民文化祭（千葉県）創作部門で参加。1992年米子市文化奨励賞受賞。2010年添谷泰一作「わが町、米子」。劇団創立40周年100回公演。ピッコロシアター風太郎演出。2012添谷泰一作大山口列車空襲を描いた「昭和二十年、夏」県内各地で上演。2014年添谷泰一作「パパがママになる

日」。以降、70回以上上演。ロングランとなる。

2021年演劇集団あり50周年記念公演 コロナにより中止になる。2022年改めて50周年記念公演。その後も、「パパがママになる日」を各地で公演。

演劇集団あり 代表 添谷泰一

メール soetani-t@sea.chukai.ne.jp

TEL 090-4896-9132